
山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター

センターだより 第130号(通巻第197号)

2014年10月6日 発行
山梨大学教育人間科学部
附属教育実践総合センター
TEL 055-220-8325, FAX 055-220-8790
E-mail: jissen@ml.yamanashi.ac.jp
URL: <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/>

■ 後期教育実習での学生支援について（山梨大学教師塾の取組）

本センターでは、平成26年度の新たな試みとして学部の学生を支援する「山梨大学教師塾」と銘打った事業を展開しています。前号でもお知らせした模擬授業室を使った道德の時間の公開授業もその一つですが、後期の教育実習での学生支援として次の2つの取組を企画実施しました。

一つは授業相談会です。後期教育実習前に実習に行く学生が実習で担当する授業について相談を受ける取組です。附属小に配置になった学生が何度も指導案をもって来ました。実習中にその授業を見に行きましたが、自信をもって授業に臨んでいる様子が分かりました。

二つ目の取組は、「教育実習生のための心のサポート」という学生のメンタル面への支援事業です。実習委員の先生方からの情報でいち早く学生の支援に当たることができました。まだ市内協力校の実習も実施されています。10月15日まで水曜日の18時から19時まで開設しますのでご希望の学生へのお声がけをお願いします。

今後は12月前後に教科の公開授業を実施し学部学生の教師力養成に寄与していきたいと考えています。

■ 後期教育ボランティアガイダンスのご案内

本センターでは、事業支援プロジェクトー教員志望大学生による支援事業として、教育ボランティア活動を実施しています。この事業にかかわる学生を対象にした、平成26年度後期の教育ボランティアガイダンスを下記のとおり開催いたします。

受け入れ先の教育委員会、各学校・機関の担当者が活動内容等の説明を行います。今回のガイダンスも教育ボランティア学生運営委員会が運営を担当いたします。

多くの学生の皆さんの御参加をお待ちしています。

日時：10月8日（水）14：55～16：30

場所：本学N号館 N-11・N-12教室（1階）

内容：教育ボランティア活動の説明、18箇所を受入先からのガイダンスなど

■ 教育実践総合センター研究紀要「教育実践学研究」第20号原稿募集について

平成26年度教育実践総合センター研究紀要「教育実践学研究」第20号の原稿を、下記要領により募集いたします。多くの方々から、教育実践学研究の推進に資する論文の投稿をお待ちしております。

1. 投稿申込について

(1) 申込資格：

- (a) 本学教育学研究科教員・本学部教員（附属学校園教員・非常勤講師を含む）及び退職者（ただし、本学等に在職時の研究に関する発表のみ可）。
- (b) 本学教育学研究科・本センター客員教授・本センター研究員及び本センター研究協力者。
- (c) 本学教育学研究科所属の大学院生（大学院生は指導教員等の承認が必要です）。
- (d) その他、センター研究紀要編集委員会が認めた者。

(2) 申込締切：平成26年10月23日（木）

(3) 申込方法：以下の項目について記したメールを jissen@ml.yamanashi.ac.jp 宛てに送ってください。

- ☆ 申込者の氏名と所属
- ☆ 共著者全員の氏名と所属
- ☆ 指導教員名（筆頭著者が大学院生の場合）
- ☆ 論文題目

2. 原稿提出について

(1) 提出締切：平成26年11月10日（月）

(2) 提出方法：

- ☆ 図表・写真等を含む原稿のすべてをメールまたはCD、USBメモリー等により提出してください。
- ☆ 図表・写真は各々別ファイルにしてください。
- ☆ 論文全体のレイアウトのわかるプリントアウトを1部提出してください。

(3) 提出先：

- ☆ 提出メールアドレス：jissen@ml.yamanashi.ac.jp
- ☆ CD、USBメモリー、プリントアウトの提出：教育実践総合センター事務室（J424・内線8325）

3. その他

(1) 刊行規程や執筆要項、原稿作成要領については教育実践総合センターのWebページ

<http://www.cer.yamanashi.ac.jp/>

にある「センター研究紀要」－「投稿案内」を御覧ください。

(2) 締切を厳守してください。

(3) 原稿の体裁など、編集委員会より修正をお願いすることがあります。

(4) 不明な点に関しては jissen@ml.yamanashi.ac.jpに御相談ください。

- (5) 研究紀要は、pdfファイルのWebによる公開と、掲載論文の概要等を印刷した研究紀要概要リーフレットの発行を行います。
- (6) 抜刷印刷をご希望の方は、論文著者の経費で承ります。

■ 平成 26 年度 第 1 回連携・教育研究会のご報告

平成 26 年 9 月 16 日(火)に、山梨県総合教育センターにおいて、第 1 回連携・教育研究会を開催しました。この会は、教員養成や教員研修に関わって、山梨大学と山梨県教育委員会(山梨県総合教育センター)がそれぞれの「強み」を生かして連携し、双方の成果を上げようという研究会です。

全体会では、昨年度の反省を踏まえた中で、今年度の研究の方向性等が確認されました。また、主事研究においては、喫緊の教育課題をグループで組織的に研究する体制をとり進めていきます。

全体会後の各分科会は、「教育課程研究(1. 理数教育, 2. 言語活動)」、「相談支援研究(1. 教育相談, 2. 特別支援教育)」、「情報教育研究(1. 情報教育, 2. 校務の情報化)」のグループに分かれ、それぞれのグループ研究の内容と今後の取り組み等について協議が行われました。また、「教育課程実施状況調査研究(社会, 理科, 英語)」については、調査結果がまとまり次第、グループ研究に入る予定になっています。

山梨県総合教育センターにおける主事研究への支援ということで、大学側からは今年度は次の教員が参加します。附属教育実践総合センターからは、鳥海順子センター長、蘆原桂教授、成田雅博准教授、川村直廣客員教授、中澤勇三客員教授、一瀬孝仁准教授が、そして、大学院教育学研究科からは、言語文化教育講座の岩永正史教授、教育実践創成講座の服部一秀教授、科学文化教育講座の松森靖夫教授、言語文化教育講座の田中武夫准教授、教育実践創成講座の東海林麗香准教授が参加します。

双方の「強み」を生かして互いに連携し、山梨の教育の益々の発展に寄与できればと思っています。

■ 第 85 回国立大学教育実践研究関連センター協議会のご報告

センター協議会総会及び部門会議が、9月18日(木)に岐阜大学において開催されました。加盟 36 大学、70 名の出席があり、山梨大学からは、鳥海センター長、蘆原教授、成田准教授、一瀬准教授の 4 名が参加しました。

総会に先立ち、文部科学省の山下教員免許企画室長の「教員養成をめぐる最新の動向について」と題する講演がありました。教育再生実行会の提言や教員の要請・採用・研修の改善に関する論点整理という新たな視点があることをお示しいただきました。

その後の総会では、議事録の確認後、平成 25 年度会計収支報告、平成 26 年度事業計画について審議され、「教育臨床部門」「教育実践部門」「教育工学部門」の 3 部門で引き続き研究を進めていくことが確認されました。

午後は、各大学からの情報交換が行われ、ミッションの再定義に基づいて教職大学院が未設置の大学からは、その準備に追われているといった報告が多くを占めました。実践センターも時代の要請に応じてどの大学も教員養成に力を入れるなど様々な取組が行われています。

情報交換後は、3 部門に分かれての協議が行われ各部門ごと、参加者で協議を行いました。詳し

い資料は実践センターに保管してあります。

次回第86回総会は2015年2月13日（金）東京学芸大学で開催、第87回総会の予定は未定です。

■山梨県教育委員会 10年経験者研修「山梨大学セミナー」の開催

本センターでは、山梨県教育委員会 10年経験者研修に協力し、「山梨大学セミナー」として毎年開講しています。今年も8月8日（金）に放送大学を会場に開催され、県内から102名の先生方が受講されました。今年度の講座は、「国際ワインと発酵食品（柳田藤寿先生）」「アレルギーの最新のメカニズムと予防／治療（中尾篤人先生）」「消費者教育推進法に基づく消費者教育の進め方（神山久美先生）」「発達の遅れや偏りをどう支えるか？（鳥海順子センター長）」の4つでした。受講生からも「大学教員の研究している最先端の分野について教えていただけることは非常に貴重で有り難い」「学校での調べ学習や地域学習で取り上げてみたい」「予防やケアを充実させたい」「授業で消費活動が社会づくりに果たす役割を伝えたい」「支援の必要な子どもへの対応に生かしていきたい」など大変好評でした。講師をお引き受けくださった先生方に心より感謝申し上げます。

■「地域連携 子どもと親と教師のための教育相談」・教育相談室に関するお知らせ

相談スタッフを募集します。

新しく着任された先生やまだ登録をされていない先生方は是非、ご協力をお願いします。新規登録や相談日時の変更等は教育実践総合センター事務室まで電話、メールなどでお申し出ください。相談スタッフは本センターのHPに掲載されます。

■教育相談室に関するお知らせ

「教育相談室（L-428）」及び相談室の備品をどうぞご利用ください

「教育相談室」のご利用に際しましては、事前に附属教育実践総合センター事務室（J号館4F）にて空き状況を確認の上、ご予約ください。火曜日は附属教育実践総合センターが優先的に使用させていただきます。鍵はJ号館1階支援課にあります。利用された場合には、相談室内に置かれた使用簿及び報告書の記載をお願いします。

教育相談室の心理検査やソーシャルスキルを高める児童・生徒用のゲームなど備品も貸し出しております。借りる際には必ず使用ノートにご記入をお願いします。

これまでのセンターだよりの一部は、 <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/centerdayori.html> で見ることができます。